

生徒会役員交代式 あいさつ

R6.12.24

まずは、旧生徒会執行部の皆さん、1年間本当にお疲れ様でした。濱田会長を中心に、皆さんがよくリーダーシップを発揮してくれたことに心から感謝しています。生徒総会や校則改正運動のように、皆さんが先頭に立って全校生徒を引っ張っていく場面もありましたし、体育大会のように、陰で縁の下の力持ちとしてみんなを支える場面もありました。いろいろな学校行事において、「伝統は守るものではなくて、新たに創り出していくもの」という気持ちで取り組んでくれ、大変嬉しく思います。

ただ、それは執行部だけでできることではなく、執行部を支えた全校生徒、特に3年生の協力が大きかったと思います。執行部のリーダーのために自分たちもがんばろうというフォローアップの精神に満ちた1年間だったように思います。どうぞ、旧生徒会執行部のみなさんに大きなねぎらいの拍手をお願いします。

さて、新執行部のみなさん、これから1年間どうぞよろしくお願いします。いつも言いますが、「私たちの学校は私たちで創る」という理念を忘れずに、失敗してもいいので、どんどんチャレンジして行ってほしいと思っています。

ここで、私からの新執行部へ2つお願いをしたいと思います。

1つ目は、大津中学校を「みんなの笑顔があふれる学校」にしてほしいということです。みんなというのは、大津中学校の関わるすべての人のことです。つまり、毎日学校に来ている人だけでなく、なかなか学校に来ることができていない人も含めて「みんな」ということになります。どのクラスにも教室に入ることが難しい人がいるかと思います。学校に来る、教室に入ることだけが最終目標ではありませんが、少しでも学校やクラスが楽しいと思えて、笑顔になれるような取組を執行部に考えてもらえたらと思っています。もちろん、それは先生たちの役目でもあります。生徒会でも意識をして取り組んでもらえるとありがたいです。

2つ目は、真に民主的な生徒会活動をしてほしいということです。皆さんは、「民主主義」と聞いて何を思い浮かべますか。いろいろあると思いますが、「多数決」を連想した人も多いのではないのでしょうか。これは大人でも誤解している人が多いのですが、「多数決」は必ずしも民主的な決定方法ではありません。なぜなら、多数決という仕組みは少数派を仕方なく切り捨てるからです。真の民主主義とは、誰一人取り残さない社会を実現することが目的です。ならば、真の民主主義社会、民主的な生徒会となるためには、どんな手立てが必要なのでしょうか。それをこの1年かけてしっかり考えて行ってほしいと思っています。

そのためには、「目的」と「手段」を明確にすることが大切になってきます。前例踏襲ではなく、この活動は何のためにやっているのかを常に意識しながら取り組んでください。各委員会で行われる「〇〇チェック」「〇〇検査」はあくまで「手段」です。本来の「目的」は何なのかを忘れずに、必要でないことや十分できている活動は「やめる」、「減らす」ことを考えてください。そして、「みんなの役に立つこと」や「学校が楽しくなること」を新たに工夫して、積極的に取り組んでほしいと願っています。

最後に、繰り返しになりますが、「私たちの学校は私たちが創る」という気概を持って、「人任せにしない」「人のせいにもしない」生徒会活動を期待しています。よろしくお願いします！